

第2回青森県こども未来県民会議

実施報告書

1. 事業目的

青森県内における少子化の要因分析や政策立案、政策効果の検証等を行い、合計特殊出生率2以上に道筋をつける少子化対策「青森モデル」を構築するため、青森県子ども未来県民会議を開催する。

2. 事業内容と実績

(1) 第2回青森県子ども未来県民会議の運営

- ① 実施場所：青森市 AOMORI STARTUP CENTER
- ② 実施日：12月16日(土) 13:00～15:00
- ③ 参加者：知事・メンバー8名

(亀山瑠香さん・牧野晴子さん欠席)

	氏名	ふりがな	居住地
1	小山 悠里	おやま ゆり	青森市
2	亀山 瑠香	かめやま るか	おいらせ町
3	工藤 史子(※)	くどう ふみこ	青森市
4	越田 安耶子(※)	こした あやこ	青森市
5	坂本 美香子	さかもと みかこ	弘前市
6	田中 綾乃	たなか あやの	南部町
7	種田 英里香	たねだ えりか	弘前市
8	牧野 晴子	まきの せいこ	青森市
9	山内 優(※)	やまうち ゆう	青森市
10	和田 和恵	わだ かずえ	東北町

五十音順。※印は団体等からの推薦。

④ 開催内容：

第1部 講演「結婚・子育て支援が出生率に与える効果について」

(京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授 柴田 悠 氏)

報告「ワークショップ実施報告」

(株式会社 I・M・S)

第2部 意見交換

	名前	意見内容
1	小山 悠里さん	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用や若者の所得アップが必要である。 ・結婚すると所得が上がる、手当がつくなどの仕組みがあるとよい。 ・男性の時短勤務やフレキシブルに働ける仕組みづくりが進んでほしい。 ・県内の小児科、産婦人科が減少している。開業費の助成など増える取組があるとよい。
2	工藤 史子さん	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職、研究職など、女性が活躍できる仕事県内にあればよい。
3	越田 美香子さん	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の女性を増やすためには、女性にとって働きやすい青森県になることが必要である。 ・若者にとって魅力的な場所など、若者が集まれる施設や若者の居場所を作ることによって、若者が青森県に定着するのではないか。
4	坂本 美香子さん	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも通園制度が開始される前に、受け入れ体制を整える必要がある。 ・職員の人員確保、配置基準の見直し、待遇の改善など、こども園や学童保育の質の向上や環境の土台づくりが重要である。 ・産休、育休に関して、職場に残る方の手当や人員補充などのサポート体制があるとよい。
5	田中 綾乃さん	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての楽しさをもっと発信したい。 ・県内におしゃれな多世代交流施設が増えるとよい。それに関する補助や助成金が欲しい。
6	種田 英里香さん	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをさらに1人多く産むための取組が重要である。 ・子どもを産んだ後、継続的な子育て支援の取組が欲しい。 ・国の基準を上回る人数を県として保育園に配置するなどの支援があれば、保育園も余裕ができ、子どもを預けやすくなる。
7	山内 優さん	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害児の認知が進む中で発達支援が非常に少ない。 ・1人産まれたら1000万円の支給(小学校入学・中学校入学など段階的に支給)があると、子どもを産もうと思うのではないか。

		<ul style="list-style-type: none">・現金支給では、子どもにお金が使われない可能性もあるので、子育て費用に使用できるクーポンを配布することも考えられる。
8	和田 和恵さん	<ul style="list-style-type: none">・県内に若者が定着するためには、県内に魅力的な仕事が必要である。・若者は給料より、確実に休みがとれるような職場を希望している。